小特集の発行にあたって

編集チームリーダー 神尾享秀
Yukiyoshi Kamio

日本の商用電源の周波数が 50 Hz と 60 Hz に分かれ、相互の電力融通の障害になっていることは有名です。新しい技術が広く利用されるためには、仕様を統一することが重要であり、いわゆるデファクトスタンダードによる方法もありますが、今日では、標準化による恩恵が大きいと思われます。グローバル化の波は、日本の得意とするものづくりの形態を大きく変え、世界のマーケットに進出するために、多くの方々が標準化作業に携わるようになりました。そして、そこにはある種の戦略も必要です。

B-plus では、毎年 3 月発行の春号で若者に向けたメッセージを送っております。昨年の春号では“多文化共生時代のサバイバルノート”として、世界を見据えた活動へのエールを送りました。また、“若者よ！世界に出よう！”のシリーズでは、留学記を掲載するなど、世界を相手に活躍する人たちの紹介を行っております。今回は、国際標準を勝ち取るための標準化会議に焦点を当て、若手を含む体験談、これから標準化会議に関わる人たちへのメッセージを掲載しております。標準化には多くの種類があり、通信関係だけでも多岐にわたっているため、全ては無理ですが、主要なものをカバーできたかと思っております。既に標準化を体験された方には、御自身で経験された標準化会議以外の世界も知って頂ければと思います。

標準化で世界を歩く！

近年、英語での発表の機会も増え、多くの論文発表が行われ、多くのコンファレンスが開催されております。ただ、英語が話せるからといって議論ができるわけではありません。英語を得意としない人でも、国際会議の場で主導権を握ることもあります。また、そのために工夫をしている人もいます。本特集では、様々な体験・工夫から示唆に富み、ためになる記事が集まりました。実際の標準化会議に挑んだ人たちの工夫、臨場感あふれる話から、世界にも目を向けて、日本の存在感を高めてほしいと思います。

体験談においては、分かりやすい執筆をお願いしましたが、具体的な表現については、著者の方にお任せし、最初原稿を楽しみにしました。これは、編集チームの考えで、記載項目を絞るより、著者の個性に頼るほうが面白いものができると思ったからです。この方法が良かったかどうかについては、編集委員の怠慢であるとのそしりも免れませんが、読者の皆様に御判断して頂ければと思います。また、英語講座のスタートとして、国際会議の英語についての記事も加えました。

最後に、この場をお借りして記事を執筆して頂いた著者の皆様、校閲者の方々にお礼を申し上げます。

読者の皆様が、大志を抱いて、世界を渡り歩くことを願って。

【小特集編集チーム】 神尾享秀, BENJEBBOUR ANASS, 小野文枝, 木下和彦, 橘拓至,
濱辺孝二郎, 三宅滋